



私たちは聴くことを大切にします。

ESの文字を左右対称に合わせることで、
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い
聴くことを表現しています。

NPO 法人えんぱわめんと堺/ES
NO.42 2023年10月発行

もくじ

- P2～3 NPO 法人えんぱわめんと堺 第21回総会&総会イベント報告
ガイドブック『エンパワメントへの道しるべ』紹介
- P4～5 【事業報告】人権 NPO 協働助成事業『子どもとおとなのエンパワメント事業』
- P6～8 【事業報告】CAP プロジェクト
- P9 【事業報告】オレンジりぼん
- P10～11 【活動報告】プロボノへの参加から
- P12 【研修報告】マイクロアグレッションについて知ろう！ 講師 北川知子さん
- P13 里親さんにきいてみました
- P14 事務局からのお知らせ



もうすぐ稲刈り

えんぱわめんと堺 駐車場横の田んぼにて

NPO法人えんぱわめんと堺 第 21 回 総会&総会イベント報告

総会ごあいさつ



こんにちは

昨日の雨から少しずつ陽がさして、新緑や空気がキラキラしています。
このような日に、本日、特定非営利活動法人(NPO法人)えんぱわめんと堺
ESの第21回総会を迎えることができました。

昨年20周年を迎えて、気持ち新たにすでに次のステージへと動き出して
いる中で、改めて本日ご参加いただいた会員の皆さまはじめ、関係者の皆
さまには、持続可能な活動に関してのご協力、ご支援をいただいているこ

と、心よりお礼申し上げます。

昨年、新たなステージとして出航しました「エンパワメンターへの道しるべ」のガイドブックも200冊
近くがすでに、子どもに関わる多くの人の元へと届き、いろんな色・カタチに膨らむ原材料になってい
ます。今日も総会後のイベントで一人でも多くのエンパワメンターを育むための場を設けています。

もうすでに、皆さまのご承知のとおり、日本ではこの4月よりこども家庭庁が、総理直属の組織とし
て『こどもまんなか政策』が動いています。

私たちが子ども権利条約をもとに子どもの権利『安心・自信・自由』を、草の根の活動から続けてきた
ことに、あらためて子どもにとって社会の一人として、権利の主体であることを言い続けてきたこと
に保障のハンコを押されたような気持ちでワクワクしています。

今年、私自身、たくさんのワクワク感を見つけることを人生の中に織り込んでいこうと決めました。エ
ンパワメンターもその一つです。

あるところでのワクワク感の研究では、「閉塞感を打ち破るために、極めて重要な感性」と言われてい
ます。

多くの閉塞感をもたらしたコロナの影響も少しずつ開放へと向かっていますが、
私たちも、一層、子どもの権利保障を強化するような活動を続けて、私たち自身も
エンパワメンターのワクワク感を促進していきたいと思っています。

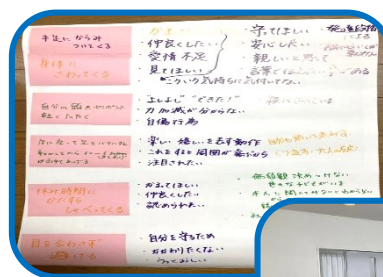
これからもご指導ご協力を願い、第21回総会のあいさつとさせていただきます

2023年5月20日

NPO 法人えんぱわめんと堺
代表理事 北野真由美

総会イベント

総会イベントとして、第1回エンパワメント研究会を開催しました。
今年度のキャッチコピーは『子どもの関わりにわくわく感をとりもどす』
ガイドブック「エンパワメントへの道しるべ」のStep1のエピソードを取り上げて、子どもの行動・言動・態度の背景にある気持ちや理由をグループワークで考えました。
様々な角度から多様な子ども像を話し合うことで、子どもの行動の一部分だけで決めつけず、価値観を押し付けたりせずにもどもを大切にする。子どもに向き合うとは、尊重するとはどういうことか…学びが深まりました。



☆今年度のエンパワメント研究会の講座はすべて終了しました。
2024年度も企画しております。ご期待ください。

ガイドブック「エンパワメントへの道しるべ」活用法



活用法その1

Step1に掲載しているエピソードを1篇を読み込み、
「エンパワメントの関わり」を探す。気づくエンパワメントは
人それぞれ。Step1の活用はガイドブックのイチオシです！

活用法その2

Step2のプログラムを使って、ワークショップのアクティビティの
一部を実施する。『め・みみ・ハートは聴く合図』という傾聴の合
言葉は、子どもにも支援者にも心に残るようで、拡がりを見せてい
ます。

子どもたちのつぶやきから気づいたこと、エンパワメントの関わりで子どもが変化した瞬間のエピソードには
子どものみかた・味方・見方がちりばめられています。ワークショップや研修で使えるプログラムを掲載。
子どもに関わる支援者や、教職員の方々に好評をいただいています。
子どもへのエンパワメントの関わり、また職場での人間関係構築の参考に♪
税込 2000 円

【事業報告】

【民間公益活動を促進するための休眠預金等に関わる資金の活用に関する法律】に基づく

人権NPO協働助成事業

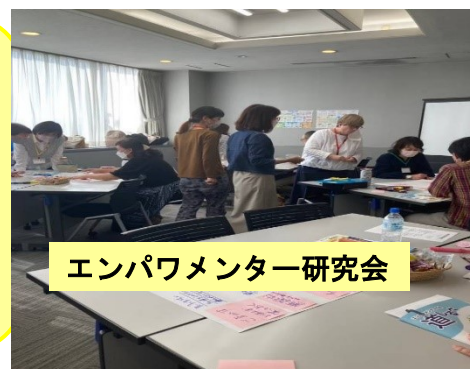
『子どもとおとなのエンパワメント事業』 報告その6



助成事業3年目となりました。しめくくりの年も、子ども・おとなへ向けてのワークショップを届けています。



エンパワメンターの存在は必要だと思いました。子どもの言動行動には意味があること。子どもの話を聴けるおとなのひとりでたいです。



エンパワメント研究会



支援者対象

日頃過ごす中で、自分も相手も大切にできるようにしたいと思いました。言葉に出して伝えていこうと思います。

子ども対象 のびのびルーム



【事後報告】

「事後報告のための振り返り1日研修」
ファシリテーター
角田尚子さん



どっぷりと研修に浸り心地よい疲れを感じた一日。ESの強みを探することで弱みも見えてきた。

「Cone as you are」子どものあるがママを受け止められるおとなでいたい。

「め・みみ・
ハートはきくあいず」
の合言葉
広がっています！



聞く・訊く
ではなく「聴く」
を大切にしたい！

(おおさこ)

人権NPO協働助成事業の3年間の集大成として、イベント『堺市に子ども条例を～』を開催します。

こども家庭庁が設置され、こども基本法が施行されました。「こどもまんなか社会の実現」に向けて社会は動き出し、子ども参加や子どもの声を聴くことが政策として掲げられています。それでもなお、子どもへの暴力（虐待・体罰・性暴力など）はあとを絶ちません。厳しい環境の中で生きる子どもに、ワークショップで出会うこともあります。子どもは社会を構成しているひとりの人として、子どものあるがままを受け入れたい。

えんばわめんと堺のビジョンである

『子どもが誰ひとり取り残されることのない、一人ひとりが安心して過ごせる社会づくり、子どもの権利意識が定着する地域社会』をめざします。

子どもが安心して生きていける未来へつなぐために、堺市の子ども条例制定に向けて共に考えましょう。ご参加お待ちしております！！

堺市に子ども条例を～ 講演とパネルディスカッション



2023年12月3日(日)開催 13:30～16:30
場所 サンスクエア堺 研修室1 参加費 1000円(学生500円)
(JR 阪和線 堺市駅徒歩3分)



講師 田中文字子さん
公益社団法人子ども情報研究センター理事・機関紙編集長
川西市子どもの人権オンブズパーソン専門員
泉南市子どもの権利条例委員会分科会委員

パネリスト ○富田久子さん
お母さんたちの心の応援団長/元堺市立小学校長
○以倉育美さん
堺市保育所で保育士40年/元堺市子ども育成課/
みんなの子育てひろばディーファミリー代表

コーディネーター北野真由美(NPO法人えんばわめんと堺代表理事)

お申し込みはPeatixで➡



CAPプロジェクト

この会報を読んでいただいている頃、私たちは「CAPプログラム」を届けるために、堺市内を走り回る日々を過ごしているはずです。

その「CAPプログラム」には、就学前・小学生・中学生向け・SNP(障がいのある子どもへのプログラム)があり、そして教職員向け、おとな向けプログラムがあります。現在は堺市教育委員会の委託を受けて堺市内全ての小学校と実施希望の中学校へワークショップを届けています。就学前プログラムについても毎年子どもワークショップとおとな向けのワークショップに取り組んでいる園もあります。

私たちが小学校や中学校へ行き、CAPプログラムの話を始めると「知ってる!」「覚えてる〜!」と子どもから嬉しい声をかけてくれます。数年前、数時間だけの出会いを覚えてくれている子どもたちとの繰り返しの再会があるのも、「一人ひとりが安心、自信、自由の権利がある大切な存在である」意識の構築になり、長年継続して取り組んでいる成果ともいえます。

今回は、その就学前のプログラムを紹介したいと思います。

就学前プログラムは、30分のワークショップ+トークタイムを3日間行います。

【1日目】

「けんり」の概念。安心・自信・自由のけんり

子ども対子ども（いじめ）のロールプレイ・「いや」という練習+トークタイム

【2日目】

知らない人対子ども（人形劇）・安全な距離、特別な叫び声の練習+トークタイム

【3日目】

知っている人対子ども（いやなさわられかた）のロールプレイ+トークタイム

就学前プログラムは、子どもを怖がらせないことが何よりも重要なポイントで、全てのロールプレイは成功版の劇で終わります。子どもたちには、成功版の劇にのみ参加してもらい、友だちの力になれること、自分の身を守る力があることを体験してもらいます。

3日目の最後には、信頼できるおとなとして担任の先生にも登場いただき、先生に相談をする場面の劇を見てもらいます。

そして、ワークショップ直後に毎回行われるトークタイムは、とても大切な時間です。

子どもとおとな1対1で行ない、おとなと対等に向き合い、真剣に聴いてもらえる体験は、子どものエンパワメントにつながります。

また3日間を通し子どもたちが安心して話せることで少しずつ信頼関係が深まり、子どもの声を促します。3日間のこのCAPプログラムの力は子どもが自らの存在を認め権利意識の気づきや変化と成長を感じます

実際のトークタイムでは初日からワークショップの内容に関係することや、楽しかった思い出、家にいるペットの話や、「いやだ」「こまっている」と思ったことなど自分の考えを伝えてくれ

オレンジりぼん

オレンジりぼん事業の『こころクラブ』は、今年度3か月に1回のペースで開催しています。参加者は、毎回の『こころクラブ』の日を楽しみに待ってくれています。

「今日はだれ（スタッフ）が前で進行するの？」と興味を持ったり、ワークショップ終了後にはスタッフの代わりに「次は11月19日です！」とアナウンスしてくれます。

「今日はアニメや声優、アーティストの話をしたい！」と、心に決めて来てくれる参加者もいます。若者文化に詳しい大学生のボランティアさんと話すことも楽しみにしているようです。

4月の『こころクラブ』で、ローズカーニバルのフリーマーケットで売るために、自分が幼い頃に使っていたおもちゃを提供してくれた参加者の一人。

「よかったら、当日販売するのを手伝ってほしいなあ」と話したら、その事を覚えてくれていて「しおちゃんに頼まれたから、お手伝いに行く」と保護者に伝えてくれたそうで、手伝いに来てくれました。お客さんとやり取りしながら、お金の計算もして、商品を買ってくれました。来てくれたことも嬉しいし、覚えてくれていたことがとても嬉しかった一コマです。

『こころクラブ』のワークショップでコミュニケーションのスキルや、からだのこと、感情の扱いなどを自分なりに表現し、みんなで共有し、くり返し学ぶことで、着実に身につけていることを感じます。

コロナ禍の影響もあり、障がい児者へのワークショップの依頼はこの数年少なくなっています。その中でも、助成金事業を活用して、放課後デイサービスでコミュニケーションのプログラムを実施したり、施設で生活する子ども達や職員にスペシャルニーズプログラム（障がいのある子どもへのCAPプログラム）の提供と子どものセーフガーディングの取り組みを届けました。府立の支援学校にもスペシャルニーズプログラムを届けました。

だれひとり取り残されることのない安心して生きられる社会にしたいという思いは強く、これからも地道に取り組んでいきたいです。

ワークショップの問い合わせなどがありましたら、えんぱわめんと堺までご連絡ください♪
(しおざき)



ローズカーニバルのご報告

5月21日に堺市西区浜寺公園で4年ぶりに開催されたローズカーニバルはさわやかな青空の下、大盛況でした。

売上金は77,858円でした！

この売上金は、主に障がい児者へのワークショップ費用に活用させていただきます。商品を提供してくださった方、購入してくださった方、遊びに来てくださった方、ありがとうございました。

ローズカーニバル売上金 これまでの用途(一部)

- 放課後等デイサービスでワークショップ
- 社会福祉法人作業所でワークショップ
- 児童養護施設でワークショップ
- 子どもの居場所でワークショップ
- 支援学校・こころクラブで使用するワークショップグッズ購入



(暑かった～でも楽しかった～)

プロボノへの参加から

プロボノに参加して思うこと

「プロボノに参加してみませんか？」助成金事業でお世話になっている大阪府人権協会の担当者の方からお誘いを受けたのは今年の2月末ごろだった。プロボノって何？どういうことをするのか？全く分からなかったが、調べてみると、プロボノとは「社会的・公共的な目的のために、職業上のスキルや経験を活かして取り組む社会貢献活動」（サービスグラント HP より）ということだった。助成金を受けているJANPIAが主催する、企業とのマッチング会に出ませんか？というお誘いだった。私は最初、プロボノにはあまり乗り気ではなかった。3月の年度末から5月のNPO総会に向けて事務作業が忙しくなる時期、時間的・人力的余裕がない状況なのに「本当にやるの？」という気持ちだった。でも、みんなで話し合っ、業務の効率化のためにはIT化が必要ということでマッチング会に参加することになった。

いろいろな企業さんがえんばわめんと堺に興味を示してくださった。オンラインのマッチング会で出会ってみて、ご縁があってNECさんにプロボノで、ワークショップ参加メンバーのコーディネート「スケジュール管理と情報共有の電子化」をお願いすることになった。NECさんとの会議は4月下旬からオンラインで毎週1回、進めることになった。（～9月初旬）

会議の中では、「こんなことはできますか？これはどうですか？」というような希望を伝えたが、どれに対しても「いいですねえ」とポジティブに受け止めていただき、プロボノ会議がとても居心地のよい場になり、いろんな意見を交わしあえた。私たちが大切にしているエンパワメントの関わりが、この会議全体を通して、できていたと思う。そのことによって信頼関係ができていった。こんなふうに日常生活の中でエンパワメントを体感したことは、これからワークショップの中で子どもたちにエンパワメントを伝えていく際にも、実感をもって伝えられることにつながると思う。

NECプロボノ担当者の方から「今やっていることは「DX」なんですよ」と言われた。「DX」はデラックスのことではなく「デジタル・トランスフォーメーション」の略で、デジタル化して考え方や行動を変えていくということだと初めて知った。今までアナログでメンバーのコーディネートをしてきたが、それを単にデジタル化するだけでなく、まず考え方を変えることが重要なんだとわかった。これは他のことでも同様だと思う。凝り固まった頭で考えるのではなく、考え方を柔軟にして、行動も変えていくことが必要で、そうすることで自分の向上、成長にもつながると思う。

会議を繰り返し、いろんな希望を伝えてスケジュール管理と共有のシステムを完成させていただいた。完成したのを見て「これから実際にこのシステムを使いこなしていけるのかなあ？」と急に不安な気持ちになった。でも、NEC担当者の方から「完成した後も継続支援しますよ」と力強いお言葉をいただいて、安心して取り組



(ES 事務所に来訪いただき、ミーティング)

めると感じた。その後、システムを使ってテストを繰り返し、少し使い慣れてきた。テストの間、うまくいかないこと、わからないことが出てきても、「チャット」で尋ねてスピーディに対応していただいている。本当に感謝の気持ちでいっぱいである。

今回、今まであまり接したことのない企業の方々と一緒に取り組んでみて、企業さんのスピーディで丁寧な対応に感謝し、その大切さを実感した。これからは私もそのような仕事のやり方を目標としたい。

いよいよワークショップが始まる。このシステムの実用が始まる。不安と期待、ドキドキとワクワクが混ざった気持ちの中で、みんなで協力しあいながら、今までと同じように丁寧にチェックしながら作業を進めていきたいと思う。

(こいけ)

JANPIA (日本民間公益活動連携機構) 主催のプロボノ成果報告会で 取り組みをビデオメッセージで報告しました

DX それは、アナログをデジタル化するだけではなく、根本的に考え方や感覚、そして行動を変えることだと知ることができました。

「その場そのものがDX」と言われて、わたしたちが、エンパワメントの概念を知った時の自分に気づきました。

エンパワメントとDX

DXって？

デジタル化と言うことではないのですよ。

D=デジタル X=トランスフォーメーション

デジタルテクノロジーを使用して、ビジネスプロセス・文化・顧客体験を新たに創造して、変わり続けるビジネスや市場の要求を満たすプロセスである（ウィキペディアより）

アナログをデジタル化する…と言うことではなく、

これまでの、考え方行動を変えるってこと！

私たちが、これまで子どもに、そして社会に向けて発信をかけてきたエンパワメントの概念、一人ひとりの力を取り戻す関わりが、実際にこの場をエンパワメントの場にした。

DX、是非みなさん、調べてみてください。宿題です

不安の解消～学びへの促進

これまで、アナログなやり方でやっていた事が、デジタル化できるのですか？

ちょっとお聞きして良いですか？

なんども、質問すみません。もう一度、教えてもらって良いですか？

子どもワークショップを250クラス分を学校単位、クラス単位、また専門性も考えて組み合わせる複雑な作業です。

こんなこと、聞いて良いのかわかりませんが…

繰り返し確認
気づきから築き

聴く、伝える
待つ
相互理解

できること、
わかること
共通言語

それが大事なんです。良いですね～気づいた事が大事です。

視点を変える、行動への変革、それはまさしく、エンパワメントの関わりで視点を変えることで、わたしたちが社会変革に向けてきたことと、同じ方向だと実感しました。

大きな挑戦でしたが、安心感から信頼感を築いていけたプロボノへの参加でした。

NECの藤田様をご報告の中で「笑顔があふれていた、成長するだろうし、見届けたい、次のステージでも一緒にいたい」とコメントしてくだり、メンバー一同、心から喜んでいました。

9月下旬より、実際にシステムを使い、ワークショップが走り出しました。

当初不安だった気持ちは、期待に変わり、みんなで使いこなしていこうと、メンバーの意識も少しずつ変化してきました。

NECドリームチームのみなさま・大阪府人権協会さん・JANPIAのみなさま、ありがとうございました！！

マイクロアグレッションについて知ろう！

講師 北川知子さん

日常的な人間関係の中で、無自覚に悪意なく起きる攻撃、マイクロアグレッション。自分は人権に配慮していると思っていても知らず知らずのうちに人権侵害をしているかもしれない。日常に潜んでいる差別が、有事（災害や事件）にはさらに大きな波になって人を傷つける。人権とは「力のある側」「多数派」の都合に合わせることや、誰かが一方的に我慢を強いられるものではない、自分を生きるための基礎だと学びました。



参加者の感想より

○マイクロアグレッションについては、自分自身でもむずかしく、振り返って臆病になっている部分があります。相手に対し、自分が関心や一緒に考えたいと思って会話をするときの言葉の発し方は、一人ひとり目の前の人との関係性やコミュニケーションによって違うと思いました。この人とは成り立つことが別の人とは違ってくる。感じ方が違うので、ていねいに向きあっていきたいと思います。答えはないと思います。

○平等と公正について、少数派、きりすてられている側にガマンを押しつけられていることに気づくことができました。よく言われがちな”気にしないから”の言葉はそこで終わらせてしまっているのだとハッとしました。

○傷つけたり、意識してなくても差別してしまうことはあるという事を前提に、その時に「ごめんなさい」と言える力や、自分の非を認める事ができる力を身につける事も同時に大切だと思いました。

○マイクロアグレッションについて学ぶ機会があってよかった。自分自身の身についたことがやはりこういう形で表われることに改めて気づくことができた。言ったらアカンではなく、そもそもなぜこういうことがおこるのかをもっと考えていきたいと思う。グループワークでもたくさんの学び、気づきがあってよかった。

○これくらいの人数のワークショップでじっくり考えていくのは、やはりよいなと思いました。

マジョリティがマイクロアグレッションを知ってもやもやしたりしんどくなったりするのは、これまでマイノリティが抱えていたしんどさが転移したもの（？）なんだろうと思います。誰がコストを負担するのか問題。

里親さんたちに聞いてみました

えんばわめんと堺の代表理事 北野真由美は夫婦で養育里親をしています。
インタビューがYouTube に公開されています。

<https://youtu.be/HTCRtTuJqel>



検索

←堺市の里親さんたち～里親さんたちに聞いてみました～

週末里親の時には見えなかったことが見えて、返事をしない挨拶をしない、ごく一般的な事をこの子達に教えるあかんのかなあ…という自分の葛藤があって、それが自分しんどかった。この子が18才になって家を出た時に社会に出られるのかという心配が大きかった。

安心しきってくると挨拶をしない、そういう時期もある。言いたくない時しんどい時、そのまます受け入れようと何回も話をしながら。徐々に子どもが変わっていくことを、彼が一番認めています。



里親としての北野夫妻の率直な気持ちや葛藤が語られています。
インタビューの中の子どものエピソードをぜひ YouTube でご覧ください。

「親」と言われるのが邪魔する。

子ども時代に「幸せ」って思う気持ちや、ホッとする気持ちや信頼関係を一緒に積んでいこうと思う人がたくさんいたらいいと思う。

親でなくてもいい、この子と一緒に育っていこう、歩んでいこうと伴走する人が増えたらいいと思うと語っています。

E Sで日々一緒に活動するなかで、「活動だから」とか「里親だから」「子どもだから」とかではなく、今、目の前にいる人と向き合う姿勢が、わたしの道しるべになっている。

(しおざき)

『暴力(DV)をなくすために～加害者更生教育プログラムより～』

内閣府地域における男女共同参画を支援するためのアドバイザー派遣事業

講師：佐々木一さん・三澤恵子さん

(DV加害者プログラムのびぽこ NO-VIPOCO主催・ファシリテーター)

日時：2023年12月10日(日) 13:30～16:00

場所：堺市産業振興センター 会議室5 参加費：無料

定員：会場参加25名 Zoom参加30人

お申し込み Peatixにてお願いします →



加害者更生教育プログラムを実施しているお二人の講師です。

暴力の加害者が変わることは、被害者の安心・安全につながります。加害者の更生教育はどのようなものなのか？地域のわたしたちにできる暴力防止について考えます。

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円(入会金なし)

更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。

◎ 会員有効期間は1年です。

◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 29名

賛助会員 64名(82口)

寄附金 67,000円

(2023年4月～2023年9月)

2023年9月末現在

ESの活動はみなさまからの寄付、
ご支援にささえられております。
今後ともよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人えんばわめんと堺/ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp <https://www.npo-es.org/>

ホームページやFacebookも見てください



編集後記

韓国ソウルの個人旅。景福宮はソウルの中心地で朝鮮王朝の王宮として観光の定番スポットになっている。でも、その宮殿の後方には、高層ビルがそびえる大都会。王宮の歴史を持つ韓国が、民主運動で社会がどんどん変わっていくことに関心を持っている。そして、K-POPにも、「カッコいいよね～ダンスをしている姿がきれいすぎる～何といっても声が優しい」と惹かれるだけでなく、その歌の歌詞やダンスに人権を尊重する社会に向けてのメッセージが隠れていることに、さらに関心深く、その沼にはまってしまってる。 BTS army

